

学校教育目標

「自ら学び、力強く生きる生徒の育成」

目指す生徒像

「好奇心にあふれ 生きた学びができる生徒」

「自ら考え 判断し 行動できる生徒」

「思いやりのあるコミュニケーションができる生徒」

学校評価は、今年度の学校経営を振り返り、成果と課題を明確にし、改善を図るためにを行っています。単にアンケート結果の数値の羅列ではなく、今年度の学校経営の重点に対しての達成度を評価し、来年度の松葉中の重点を定めるための指標としていきたいと考えます。

アンケート結果を目指す生徒像の3つに分類し、いくつかのアンケート項目をまとめて分析しています。各数値に関しては、アンケートの質問に対して、「そう思う」「だいたいそう思う」などの肯定的な意見の割合を記載しています。

1 「生きた学び」について

項目として「授業について」「家庭学習について」「将来のことについて」「部活動について」「タブレット端末の利活用について」に分類しています。＜表1＞は項目ごとにまとめた数値です。

学びについては、今年度は若干ではありますが、保護者の皆様に授業を参観していただく機会を設けることができました。今後も、定期的に授業参観を実施してまいります。

家庭学習については、生徒・保護者・教職員とも、習慣化されていないという結果になり、昨年度に引き続き課題となりました。宿題のための家庭学習ではなく、自らの学びを充実させるための家庭学習となるよう、主体的に学習を進めていくことが必要です。座学のみが家庭学習ではなく、興味のあることについて見識を広げることも、目指す生徒像の「生きた学び」に大きく関わってきます。

部活動については、「部活動のあり方に関するガイドライン」に則って活動しています。日数・時間に制限がある中でも生徒達は活動できる時間を目一杯活用し、意欲的に取り組むことができています。その成果もあり、自分自身の成長を感じることができていると考えます。また、今後は部活動の地域移行も検討されており、部活動のあり方についても大きな変化が予測されます。

タブレット端末の利活用については、有効活用されている割合が高いものの、学校でも活用の仕方について指導することがあります。しかし、昨年度と比較すると、「筆記用具のように使用する」ことについて順調に段階を踏めていると考えます。

生きた学びの実現には、知識の積み重ねではなく、得た知識をどのように活用していくのか、他者との協働によりどのようにして課題解決を目指すのかという力が必要になります。学校では、その力の育成に向けて、授業改善を日々実践しているところです。

＜表1＞

	生徒	保護者	教職員
授業について ・わかりやすさ、主体的な取り組み、 協働学習への意欲	82.3%	—	86.7%
家庭学習について ・習慣づけ、主体的な学び	71.7%	57.5%	57%
将来のことについて ・夢への努力、保護者との対話	70.8%	74%	66.7%
部活動について ・意欲的な参加、心身の成長	85.4%	72.9%	76.7%
タブレット端末の利活用について ・端末の有効活用、ルールを守った活用	85.2%	67.7%	91.1%

2 「自ら考え、判断し、行動できる」について

項目として「学校・社会のルールについて」「学級活動・生徒会活動への参加について」「自ら考え、判断することについて」「コロナ禍での生活について」に分類しています。

＜表2＞は項目ごとにまとめた数値です。

自ら考え、判断し行動することについては、「生きる力」としても重視されている資質・能力です。本校でも、これからの不確実な社会を生き抜くうえで最も大切にしたい力の一つです。

学校や社会のルールに則って生活することは、高い割合でできており、大人から見ても評価している項目です。

学級活動や生徒会活動では、活動を重ねていく中で、良い人間関係が構築されていきますので、意欲的に取り組むことができているという評価は今後の人間関係づくりにも良い影響があると考えます。

自ら考え、判断することについては、生徒達は高い自己評価をしています。また、判断を誤った際には自分の考えを修正できると回答した生徒も多く、様々な場面で自身の判断を繰り返し行っていることがうかがえます。

昨年度より「校則検討委員会」が発足されました。今年度は活動ができませんでしたが、今後も生徒・保護者・教職員でルールのあり方や、学校生活をより良くするために必要なことの検討を進めています。

＜表2＞

	生徒	保護者	教職員
学校・社会のルールについて ・ルールを守っての生活	93.6%	95.3%	93.3%
学級活動・生徒会活動への参加について ・意欲的な活動、良い人間関係づくり	83.1%	92.9%	71.7%
自ら考え、判断することについて ・自分の判断での行動、自分の考えを持つ、 誤った判断の際に修正できる	87.4%	87.1%	—

3 「思いやりのあるコミュニケーションができる」について

項目として「思いやりについて」「他者への理解について」「学校生活での意欲について」に分類しています。＜表3＞は項目ごとにまとめた数値です。

思いやりを持って行動していると自己評価をした生徒は多く、保護者からもご自身のお子さんに対して高い評価となりました。

同様に他者への理解についても、友達の考えを理解しようとする回答した生徒が多くいました。しかし、本校でもSNS上でのトラブルが増加しています。他者への理解不足や思いやりのない発言から始まるが多くなっています。今後も、思いやりと他者への理解は大事にしていってほしいです。

人間関係の構築については、学校生活において生徒会活動や部活動、学校行事や学級活動などの様々な場면을繰り返し行いながら醸成されていくものです。コロナ禍を経て、行事のあり方や目標など、改めて検討していきます。

＜表3＞

	生徒	保護者	教職員
思いやりについて ・思いやりを持って行動している	89.2%	92.5%	81%
他者への理解について ・他者の考えを理解し、共に活動をする	93.6%	82%	81%
学校生活での意欲について ・人間関係を構築し、意欲的に生活する	82.5%	—	—

4 「その他」について

項目として「相談に対しての教職員の対応について」「人権を尊重した指導について」「感染症対策について」「学校の情報伝達について」に分類しています。＜表4＞は項目ごとにまとめた数値です。

相談に対しての教職員の対応については、生徒・教職員と保護者との回答に差がありました。学校体制として、一つ一つの課題に真摯に取り組み、保護者との連携を密にしています。

人権を尊重した指導については、生徒と保護者・教職員との回答に差がありました。自分は思いやりを持って行動していると考える生徒は多く、人権を尊重した指導がされていると答えた生徒が少ないことから、周囲に対する不安があるようです。学校としては、今後も生徒同士、生徒と教職員の信頼関係の構築に力を入れていきます。

情報伝達については、できるだけわかりやすくスムーズに伝達していけるよう、今後も取り組んでいきます。「つながる連絡」の活用を増やし、各連絡をデジタル化していくことを取り組んでいきます。

＜表4＞

	生徒	保護者	教職員
相談に対しての教職員の対応について ・丁寧に応じている、親身に対応している	86.3%	73.9%	88%
人権を尊重した指導について ・いじめ防止、人権の尊重	62%	69.6%	88%
コロナ対策について ・適切な対応	85.4%	92%	—
情報伝達について ・HP、メール、たより	—	89.3%	—

5 全体をとおして

アンケートの回答にご協力いただき、本当にありがとうございました。

学校行事や授業参観など、制限を設けての実施となりましたが、多くの保護者の方々に学校の様子を見ていただくことができました。

また、「学校行事」「部活動」「教科指導」「家庭でのタブレット端末利用」などについてのご意見をいただきました。

いただいたご意見を元に、教職員一同、目指す子ども像を今一度見つめなおし、教育活動において、どこに重点を置き生徒達の成長を支援していくかを検討していきます。